今月のテーマ
ランタンフェスティバル

田上市長のホッとトーク
～自らの思いを皆さんに語るコラム～

2月になると、長崎に2つ目のお正月がやってきます。旧正月です。

中国の旧正月(春節)を祝う行事が、皆さんご存じのランタンフェスティバル。今年は2月19日から3月5日までの15日間にわたり開催されます。

期間中は、新地中華街をはじめ、唐人屋敷、孔子廟、浜町アーケード、中央公園、眼鏡橋、崇福寺、興福寺など、市内中心部のいたるところに1万数千個のランタンが飾られ、訪れる人たちを幻想的な世界へ誘ってくれます。

今や長崎の冬を彩る一大風物詩となったこの「ランタンフェスティバル」ですが、もともとは、新地中華街の皆さんが、中国の旧正月(春節)を祝う行事として行っていた「春節祭」でした。平成6年、この春節祭を、冬のイベントの目玉にしようと取り組み始めて、今年で22年目を迎えます。

ペーロンや龍踊りは中国から伝わり長崎の伝統になったものです。長崎の墓の横に置かれる土神様の風習も中国から来たものですし、唐寺や孔子廟のように中国の人たちが建てた建物も残っています。長崎は、長い歴史の中で中国文化の影響を強く受けて独特の文化を育んできたまちですが、ランタンフェスティバルのように、現代になっても新しい中国情緒を生み出し続けているのです。そう考えると、まさに歴史は現在進行形で、私たちはその中にいるということが分かります。

新作オブジェもお楽しみに！

＊　＊　＊

ランタンフェスティバルは、この20年あまりの間に進化してきました。イベントを行う会場は次第に広がり、赤いランタンだけでなく黄色や桃色のランタンも飾られ人気を呼び、ランタンオブジェも随分増えてきました。

中国の伝統文化の中に登場するパフォーマンスの一つで、一瞬で面が変わる「変面」をご覧になったことがありますか？二胡の演奏なども中国情緒満点の出し物です。

イベントだけでなく、この機会に長崎の中のいろいろな中国情緒にふれるのもランタンフェスティバルの楽しみ方の一つです。

例えば、唐人屋敷に足を運ぶと、土神堂、天后堂、観音堂、福建会館を、赤いろうそくを供えながら歩く「四堂巡り」が楽しめます。

最終日の旧暦1月15日は「元宵節」。この日は一家団らん、一家の幸せを象徴する「元宵」と名付けた団子を食べる風習があり、崇福寺では毎年、皆さんに幸せになっていただきたいと、元宵団子を振る舞っています。これも一度味わってみてはいかがでしょうか。

期間中毎日、「ランタンさるく」が実施されます。ガイドの案内でゆかりの場所を歩くと、知らなかった長崎の中の中国を発見できるだけでなく、ランタンフェスティバルに込められた華僑の皆さんの思いにもふれることができるのではないでしょうか。

ランタンフェスティバルには、「もう知ってるよ」とは簡単にいえない奥深さがあります。ぜひ15日間の期間中、何度も足を運んでみてください。

出かけて見る・知るまちのオススメスポット
ながさきプチ旅行
由緒ある庭園が美しい
中の茶屋

都会の喧噪を離れて…

思案橋から丸山方面へ向かい、史跡料亭「花月」脇をそぞろ歩き。すると程なく中の茶屋へ。

ここは、江戸時代に遊女屋が茶屋を設けていた所で、茶室や休憩所として親しまれていた。民謡「長崎ぶらぶら節」で「遊びにいくなら花月か中の茶屋」と唄われるほどの人気ぶりだ。きっとあの幕末の志士も訪れていたのでは…。

今でもその趣は変わらない。庭園には凛とした空気が流れ、縁側に座ると実に気持ちがいい。有料で茶室・和室も利用できるので、おもてなしにも喜ばれそうだ。

また、かっぱ絵で知られる漫画家、清水崑の原画も展示されているので、併せて楽しむことができる(詳細32ページ)。

この春、丸山を訪れたら、ぜひ「和」を感じに立ち寄ってみてはいかが？